

2026 年度事業計画(案)

定款に基づき、地域の美術振興を図るとともに、画家加納莞薔の平和思想を広く広める活動を行う。

目的

美術館を運営し、美術工芸品の展示公開、調査研究等を行い、合わせて芸術鑑賞の意識を高め、地域に根ざした芸術文化の発展に寄与することを目的とする。

事業内容

- (1)美術館の管理運営
 - (2)美術館資料の公開、保管、展示
 - (3)美術館資料に関する調査研究、講演会、研究会等の開催
 - (4)芸術鑑賞の意識を高め、「画家加納莞薔の目指した恒久平和へ向けての思い」をベースに地域芸術文化の発展に寄与するための事業
 - (5)その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- (以上「定款」より)

《現状の分析》

当館は年間来館者 10,000 人を長く目標にし、実現もしてきたが、ここ数年は減少傾向にあった。2025 年度は約 10,748 人(アウトリーチ含む)まで、かろうじて回復した(2026 年 2 月 20 日現在)。

(参考:2019 年 17,971 人、2020 年 4,315 人、2021 年 11,038 人、2022 年 8,770 人、2023 年 7,997 人、2024 年 7,446 人)

その要因としては以下のことが考えられる。

・コロナの影響で変化した「外出控え」がようやく戻ってきた。団体客については、緩やかに回復している。

しかし、回復はまだ実際には途上にあり、

・従来来館者としてターゲットとしていたファン層の高齢化が進んでいて、人数も減少していること。

・運転免許返納者が増えるなか、公共交通機関(イエローバス)の連絡・本数が少なく移動手段を持たない人が多くなったこと。

- ・65 歳以降も就業する人が多くなり、余暇時間が減っていること。
- ・「友の会」などの組織をつくっていなかったため、美術館に積極的に関わる層をつくっていなかったこと

などの課題とともに、

- ・酷暑、豪雨、豪雪、地震等の天候や自然災害で外出を控えることを勧められる日が少なからずある。
- ことにも問題意識を持つことを求められている。

I 独自事業

1. 加納莞菴とエルピディオ・キリノの思想・業績を広く世に伝え、また、次世代へとつなぐ。
 - ① ユネスコ「世界の記憶」登録再申請のため下記の各機関の協力を得る。
安来市教育委員会、島根大学などの学術機関
フィリピン国内の関係諸団体
 - ② 学校(児童・生徒)、交流センター、また地域内外の各種団体への講演活動
 - ③ 教科書等に莞菴のエピソードがとりあげられていることもあり、各教育委員会と連携を深める。
 - ④ バーチャル展示により、加納莞菴の思想・業績について、オンラインで公開を目指す。
2. 美術品の修復及び購入
 - ①加納莞菴(辰夫)の作品について適宜行う。
3. 加納美術館での企画展を実施(2026 年度予定)
企画:4 つのキーワード
 - ①平和 ②地域性と地元出身作家 ③収蔵品活用 ④多世代を対象

4～6 月 小野竹喬・春男 親子展[平和・収蔵品活用]
6～8 月 たじまゆきひこ 絵本原画展 (関連事業)[平和・多世代]
9～10 月 えほん『ひろしまの子』展[平和]
武上秋津版画作品展[地域・地元]
10～12 月 こうげいやすぎ参 河井寛次郎没後 60 年記念展[地域・地元]
1～3 月 備前焼名品展[収蔵品活用]
安来のアーティスト展[地域・地元]

II 委託事業(指定管理 2023～27 年度)

1. 安来市加納美術館の運営全般(安来市より委託)

- ・市条例に基づき管理・運営。
- ・収蔵品を活用した展覧会開催
- ・施設・設備の管理

(Ⅰ・Ⅱの共通項目)

① 資料の収集・保存について

作品修復を適宜行う

寄託・寄贈作品の受け入れを行う

継続してデジタル台帳(データベース)を完成させ、活用する

② 調査研究について

デジタルデータベースを活用する

他機関(博物館、美術館等)と相互協力

③ 展示について

常設展 加納莞菴展 通年展示する

収蔵品展 随時もしくは企画展に合わせる

④ 教育普及:下記を適宜実施する

対話型鑑賞会「アート de トーク」

講演会

ワークショップ

名碗を愉しむ会

アウトリーチ(出前授業)

バーチャルミュージアムの構築を継続して検討する。

データベースを活用した音声ガイドを実用化する。

⑤ 地域連携

市内各施設・各学校(小中高)や、文化協会、しまねミュージアム協議会などアソシエーションと強く連携する

⑥ 観光振興

市や県の観光協会や各部局との協力と連携する。

観光のための商材として位置づける。

⑦ 福祉

障がい者対応などにつとめる。

⑧ 広報

紙媒体:ポスター、チラシ、市広報誌「どげなかね」、「美術館つうしん」、新聞広告
リーフレット 外国語版(英語・フランス語)の制作

放送媒体:テレビ・ラジオ CM 行政告知

インターネット：公式ウェブサイト、各種 SNS
パブリシティの活用、プレスリリース

⑨接遇

親しみやすく親切的な接遇をひきつづき心がける
併設レストラン「やまさや」と、引き続き協力する。
感染症の予防については、引き続き十分に配慮する。

Ⅲ 運営全般

1. 人材の確保

- ① 次世代の学芸員の確保 が急務
- ② ボランティア、サポーターなどの制度の確立を目指す。

2. 事業資金の確保

- ① 各種ファンドの調査と申請に力を入れる